

仲間作りや自己表現力を身につける演劇活動

- ねらい
- ・せりふの言い方やジェスチャーを各自で考え、クラスメイトと相互評価しながら、アイデアや意見を交換したり、劇の練習をしたりする中で連帯意識を育てる。
 - ・劇を成功させたときの自信と成就感、達成感を味わわせる。
 - ・声の大きさ、せりふの言い方やジェスチャーを通して、自己表現力を磨かせる。

動機・指導感

- ・最近の子どもたちは、多人数で遊んだり、一つのことに協力して何かを成し遂げたりする体験は少なくなっている。そのため、人生を豊かに生き抜くために必要な社会性や連帯性に乏しい。本校の児童も、保護者をはじめ、周りから世話されることに慣れきっている傾向が強く、自分で深く考えたり、悩んだりすることなく過ごしてきている。授業中だけでなく、普段の生活を観察していると、相手に自分の考えや気持ちを的確に伝える、いわゆる自己表現力が乏しい。これから21世紀を逞しく生き抜く子どもたちに、総合的な学習の時間で演劇活動を通して、社会性、連帯性、そして自己表現力を培っていききたい。

演劇指導のポイント

1. 台詞のないときが、演技しているとき(台詞のないときにいかに演技させるかが大切)
友だちの台詞に反応すること
2. 手は口ほどにものを言う。
3. 動作のあとに台詞を言う。
4. 大根役者には、手に何かを持つ。
5. 頭の高さを変えて演技する。
6. 相互評価で、演技は上達する。
7. 役者の性格を考える。
8. 自然さをなくす。
9. 動作に緩急をつける。
10. 長い台詞は、場所を変えて言う。
11. 今、自分はどこを見ているかを意識する。
12. うまい子を徹底的にほめる。
13. 開幕時は、ストップモーションで行う。



4年生の指導ポイント

- ・演技は教師がお手本を見せる。
- ・ゆっくりした動作をする。
- ・ステージの向きに合わせて教室でも練習する。(上手、下手を間違わないこと)
- ・歌う場面を取り入れる。

